

---

# 苫小牧市立病院経営指標自己評価

---

令和4年10月

苫小牧市立病院

## 【目 次】

苫小牧市立病院経営指標評価基準表	.....	1
1 医療機能等指標に係る項目	.....	2
2 経営の効率化に係る項目		
(1) 収支改善に係るもの	.....	4
(2) 経費削減に係るもの	.....	5
(3) 収入確保に係るもの	.....	6
(4) 経営の安定性に係るもの	.....	8
3 収支の状況	.....	9

## 苫小牧市立病院経営指標評価基準表

苫小牧市立病院経営指標に掲げた項目（33項目）について、令和3年度の目標値と実績値を比較、分析し、以下のとおりAからEまでの5段階で評価する。

評 価	評 価 基 準
A	経営指標の目標値を大幅に上回り、特に優れた成果が認められる。
B	経営指標の目標値を達成している。
C	経営指標の目標値をおおむね達成している。
D	経営指標の目標値を下回っており、改善の余地がある。
E	経営指標の目標値を大幅に下回っており、大幅な改善が必要。

## 苫小牧市立病院経営指標評価項目

### 1 医療機能等指標に係る項目

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析																					
					評価	コメント																				
1	紹介患者数(人)	7,200	7,168	▲32	C	<p>コロナ禍においても、地域における医療機関と診療の相互協力を努めたものの、令和4年の年明けから、これまでになく急激に新型コロナウイルス感染症が拡大し（いわゆる第6波）、北海道における「まん延防止等重点措置」（期間：1月27日～3月21日）の影響などにより、目標値を下回りました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">2年度 7,412人</td> <td style="text-align: center;">3年度 7,168人</td> <td style="text-align: center;">増減 ▲244人</td> </tr> </table>	2年度 7,412人	3年度 7,168人	増減 ▲244人																	
2年度 7,412人	3年度 7,168人	増減 ▲244人																								
2	逆紹介(診療情報提供)件数(件)	5,700	5,646	▲54	C	<p>1番と同一の理由により、目標値を下回りました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">2年度 5,675人</td> <td style="text-align: center;">3年度 5,646人</td> <td style="text-align: center;">増減 ▲29人</td> </tr> </table>	2年度 5,675人	3年度 5,646人	増減 ▲29人																	
2年度 5,675人	3年度 5,646人	増減 ▲29人																								
3	紹介率(%)	51.0	49.3	▲1.7	C	<p>1番と連動して、目標値を下回りました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">2年度 48.6%</td> <td style="text-align: center;">3年度 49.3%</td> <td style="text-align: center;">増減 1.3%</td> </tr> </table>	2年度 48.6%	3年度 49.3%	増減 1.3%																	
2年度 48.6%	3年度 49.3%	増減 1.3%																								
4	逆紹介率(%)	42.7	40.8	▲1.9	C	<p>2番と連動して、目標値を下回りました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">2年度 42.4%</td> <td style="text-align: center;">3年度 40.8%</td> <td style="text-align: center;">増減 ▲1.6%</td> </tr> </table>	2年度 42.4%	3年度 40.8%	増減 ▲1.6%																	
2年度 42.4%	3年度 40.8%	増減 ▲1.6%																								
5	時間外救急患者数(件)	3,800	3,943	143	B	<p>当圏域で一次救急を担う「夜間・休日急病センター」と、輪番制で二次救急を担う当院・王子総合病院の救急患者数の合計は、2年度と比較して1,772人増加しており、当院においても295人増加しました。</p> <p>※当圏域の救急患者数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">2年度</td> <td style="text-align: center;">3年度</td> <td style="text-align: center;">増減</td> </tr> <tr> <td>市立</td> <td style="text-align: center;">3,648人</td> <td style="text-align: center;">3,943人</td> <td style="text-align: center;">295人</td> </tr> <tr> <td>王子</td> <td style="text-align: center;">3,985人</td> <td style="text-align: center;">4,150人</td> <td style="text-align: center;">165人</td> </tr> <tr> <td>救急センター</td> <td style="text-align: center;">7,704人</td> <td style="text-align: center;">9,016人</td> <td style="text-align: center;">1,312人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">15,337人</td> <td style="text-align: center;">17,109人</td> <td style="text-align: center;">1,772人</td> </tr> </table> <p>当院単独の救急患者数においても目標値を上回っており、ワクチン接種や新しい生活様式を取り入れることなどで外出機会が増えたことにより、救急医療の需要が増加したものと分析しています。</p>		2年度	3年度	増減	市立	3,648人	3,943人	295人	王子	3,985人	4,150人	165人	救急センター	7,704人	9,016人	1,312人	合計	15,337人	17,109人	1,772人
	2年度	3年度	増減																							
市立	3,648人	3,943人	295人																							
王子	3,985人	4,150人	165人																							
救急センター	7,704人	9,016人	1,312人																							
合計	15,337人	17,109人	1,772人																							
<p><b>【参考】</b>            一次救急～夜間・休日急病センターや休日当番の医療機関などで行われる入院や手術を伴わない医療            二次救急～入院や手術を要する症例に対する医療</p>																										

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析				
					評価	コメント			
6	分べん取扱い件数(件)	630	682	52	A	<p>市内の分べん取扱い施設が減少したことにより、当院の周産期医療に対する需要が増加しました。このため、助産師の中途採用や夜勤時間帯の看護スタッフを増員するなどの体制を構築して対応した結果、目標値を上回ることができました。</p> <table border="0"> <tr> <td>2年度 632件</td> <td>3年度 682件</td> <td>増減 50件</td> </tr> </table>	2年度 632件	3年度 682件	増減 50件
2年度 632件	3年度 682件	増減 50件							
7	手術件数(件) (うち全身麻酔手術) (件)	2,000 (1,200)	2,046 (1,246)	46 (46)	B	<p>目標値を上回りましたが、コロナ禍以前は、年間2,500件程度の実績があったことから、引き続き手術件数の回復に取り組んでいきます。</p> <table border="0"> <tr> <td>2年度 2,091件 (1,406件)</td> <td>3年度 2,046件 (1,246件)</td> <td>増減 ▲45件 (▲160件)</td> </tr> </table>	2年度 2,091件 (1,406件)	3年度 2,046件 (1,246件)	増減 ▲45件 (▲160件)
2年度 2,091件 (1,406件)	3年度 2,046件 (1,246件)	増減 ▲45件 (▲160件)							

## 2 経営の効率化に係る項目

### (1) 収支改善に係るもの

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
8	経常収支比率(%)	109.4	115.0	5.6	A	新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金の活用による医業外収益の増加や、病院事業費用の執行残により目標値を上回り、黒字化することができました。 【9頁の27番、28番参照】
※算出式 = (経常収益 ÷ 経常費用) × 100 <b>【参考】</b> 経常収益 = 医業収益 + 医業外収益 経常費用 = 医業費用 + 医業外費用 経常収支 = 経常収益 - 経常費用						
9	医業収支比率(%)	76.5	80.0	3.5	B	目標値を上回りましたが、安定的な経営基盤を構築するためには、医業収益による全体の収支均衡が重要であることから、今後の増患対策が直近の課題と認識しています。
※算出式 = (医業収益 ÷ 医業費用) × 100 <b>【参考】</b> 医業収支 = 医業収益 - 医業費用						
10	資金不足比率(%)	—	—	—	B	令和2年度に引き続き純利益を計上したことにより、令和2年度決算に存在していた資金不足は解消したことから、当該比率は算出されません。
※算出式 = (資金不足額 ÷ 事業規模) × 100 <b>【参考】</b> 資金不足額 = (流動負債 + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高 - 流動資産) - 解消可能資金不足額 事業の規模 = 医業収益の額 - 受託工事収益の額						

(2) 経費削減に係るもの

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
11	職員給与費対 医業収益比率(%)	62.2	60.7	▲1.5	B	職員給与費は看護師手当の増などにより増加しましたが【9頁の28番参照】、入院収益など医業収益が目標値よりも増加したことから【9頁の27番参照】、結果として当該比率を下げる事ができました。 病院事業は人的サービスが主体であり、当該比率が高い傾向にあります。コロナ禍の影響から医業収益が極端に減少しており、平常時の比率とは比較できないものと認識しております。
※算出式 = (職員給与費 ÷ 医業収益) × 100						
12	材料費対医業収益比率 (%) (うち薬品費比率 (%))	23.3 (12.0)	22.2 (11.2)	▲1.1 (▲0.8)	B	材料費は高額薬品の使用量減少などにより減少し【9頁の28番参照】、かつ、医業収益が目標値よりも増加したことから【9頁の27番参照】、結果として当該比率を下げる事ができました。
※算出式 = (材料費 ÷ 医業収益) × 100 ※算出式 = (薬品費 ÷ 医業収益) × 100						
13	後発医薬品指数(%)	96.0	96.0	0.0	B	後発医薬品の供給停止や出荷調整が頻発しましたが、代替後発医薬品の確保に努めた結果、目標を達成することができました。
※算出式 = 後発医薬品の数量 ÷ { (後発医薬品のある先発医薬品の数量) + (後発医薬品の数量) } × 100						

(3) 収入確保に係るもの

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析							
					評価	コメント						
14	年間延入院患者数(人)	73,000	75,079	2,079	B	<p>延長が可能な不急の検査や手術による入院を一部制限したことにより、前年度と比較して入院患者数は減少したものの、救急医療や周産期医療の機能維持に努めた結果、目標値を上回ることができました。</p> <p>一方で、コロナ禍の影響が少なかった令和元年度と比較すると25,710人減少していることから、引き続き入院患者数の回復に取り組んでいきます。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">元年度</td> <td style="text-align: right;">3年度</td> <td style="text-align: right;">増減</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">100,789人</td> <td style="text-align: right;">75,079人</td> <td style="text-align: right;">▲25,710人</td> </tr> </table>	元年度	3年度	増減	100,789人	75,079人	▲25,710人
元年度	3年度	増減										
100,789人	75,079人	▲25,710人										
15	入院収益 (百万円、税抜)	4,819	5,013	194	B	<p>前年度と比較して、分べん取扱い件数や新型コロナウイルス感染症による入院患者数が増加したことにより、目標値を上回ることができました。</p> <p>一方で、コロナ禍の影響が少なかった令和元年度と比較すると756百万円減少していることから、引き続き入院収益の回復に取り組んでいきます。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">元年度</td> <td style="text-align: right;">3年度</td> <td style="text-align: right;">増減</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">5,769百万円</td> <td style="text-align: right;">5,013百万円</td> <td style="text-align: right;">▲756百万円</td> </tr> </table>	元年度	3年度	増減	5,769百万円	5,013百万円	▲756百万円
元年度	3年度	増減										
5,769百万円	5,013百万円	▲756百万円										
16	病床利用率(%)	52.4	53.9	1.5	B	<p>14番と15番と関連して、目標値を上回ることができました。</p> <p>一方で、コロナ禍の影響が少なかった令和元年度と比較すると18.2%減少していることから、病床利用率の回復が今後の課題と認識しています。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">元年度</td> <td style="text-align: right;">3年度</td> <td style="text-align: right;">増減</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">72.1%</td> <td style="text-align: right;">53.9%</td> <td style="text-align: right;">▲18.2%</td> </tr> </table>	元年度	3年度	増減	72.1%	53.9%	▲18.2%
元年度	3年度	増減										
72.1%	53.9%	▲18.2%										
<p>※算出式 = (年間延入院患者数 × 100) ÷ (稼働病床数 × 実日数)</p>												
17	入院患者1人1日当たり 診療収入(円)	66,010	66,778	768	B	<p>診療単価が高い緊急入院患者や新型コロナウイルス感染症患者が増加したことにより、目標値を上回ることができました。</p>						
<p>※算出式 = 入院収益 ÷ 年間延入院患者数</p>												

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析					
					評価	コメント				
18	平均在院日数(日)	9.4	9.5	0.1	C	<p>限られた病床を有効に利用するために効率的な病床運営に努めた結果、前年度と比較して0.3日短縮しましたが、目標値からは0.1日延長となりました。</p> <table border="0"> <tr> <td>2年度 9.8日</td> <td>3年度 9.5日</td> <td>増減 ▲0.3日</td> </tr> </table>		2年度 9.8日	3年度 9.5日	増減 ▲0.3日
2年度 9.8日	3年度 9.5日	増減 ▲0.3日								
※算出式＝年間延入院患者数÷{(入院件数+退院件数)÷2}										
19	年間延外来患者数(人)	170,300	170,979	679	B	<p>目標値をわずかに上回ることができ、医療機関への受診控えは収まりつつあると分析しております。</p> <p>一方で、コロナ禍の影響が少なかった令和元年度と比較して26,713人減少していることから、引き続き外来患者数の回復に取り組んでいきます。</p> <table border="0"> <tr> <td>元年度 197,692人</td> <td>3年度 170,979人</td> <td>増減 ▲26,713人</td> </tr> </table>		元年度 197,692人	3年度 170,979人	増減 ▲26,713人
元年度 197,692人	3年度 170,979人	増減 ▲26,713人								
20	外来収益 (百万円、税抜)	2,537	2,550	13	B	<p>19番と連動して、目標値を上回ることができました。</p>				
21	外来患者1人1日当たり 診療収入(円)	14,913	14,900	▲13	C	<p>高額な注射薬の使用や新型コロナウイルス感染症に関する検査が増加したものの、目標値をわずかに下回りました。</p>				
※算出式＝外来収益÷年間延外来患者数										

(4) 経営の安定性に係るもの

番号	項目	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
22	医師数(人) (臨床研修医等も含む)	75	75	0	B	大学等関係機関との連携や臨床研修の推進などにより、目標の医師数を確保することができました。
23	看護師数(人)	425	416	▲9	C	学資金貸与制度の活用や職員の随時募集を行いました。退職者も一定程度いることから、目標値を下回りました。
24	企業債残高 (百万円)	8,889	8,786	▲103	B	医療機器の計画的な更新や感染症対策に係る補助金を活用したことにより、令和3年度の企業債発行を抑えることができ【9頁の30番参照】、全体の企業債残高を目標値より減少させることができました。 今後も効果的な設備投資により費用の平準化を図りつつ、企業債残高の縮減に努めていきます。
※企業債とは地方公営企業が施設の建設・改良等に要する資金に充てるために国などから借りのお金のこと						
25	一時借入金残高 (百万円)	0	0	0	B	資金不足が生じた場合は、通常、運転資金を金融機関等からの借入金で措置します。 令和2年度に引き続き純利益を計上したことから、一時借入金は不要となっております。
26	累積資金収支 (百万円)	174	713	539	A	令和2年度に引き続き純利益を計上したことから、資金収支はプラスに転じて目標値を上回り、黒字化することができました。【9頁の33番参照】
※算出式＝流動資産－流動負債						

### 3 収支の状況

(単位：百万円、税抜き)

番号	収益的収支	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
27	病院事業収益	12,208	12,601	393	A	<p>医業収益は、患者数の増【6頁の14番、7頁19番参照】などにより、入院収益、外来収益ともに目標値を上回ることができました。</p> <p>医業外収益は、感染症対策に係る補助金により、目標値を上回ることができました。</p>
	医業収益	8,089	8,315	226		
	入院収益	4,819	5,013	194		
	外来収益	2,537	2,550	13		
	その他	733	752	19		
	医業外収益	4,093	4,260	167		
	特別利益	26	26	0		
28	病院事業費用	11,221	11,007	▲214	B	<p>医業費用の職員給与費は、感染症対策に係る手当の増加により、目標値を上回り支出しました。</p> <p>職員給与費以外の経費は、全て目標値よりも削減することができました。</p>
	医業費用	10,572	10,396	▲176		
	職員給与費	5,031	5,050	19		
	材料費	1,887	1,845	▲42		
	経費	2,649	2,576	▲73		
	その他	1,005	925	▲80		
	医業外費用外	560	542	▲18		
特別損失	89	69	▲20			
29	経常収支	1,050	1,637	587	A	27番、28番に連動して、目標値を上回ることができました。
	当年度純損益	987	1,594	607		

(単位：百万円、税込み)

番号	資本的収支	3年度 目標値	3年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
30	資本的収入	1,603	1,490	▲113	B	企業債は、感染症対策に係る補助金を活用して医療機器を整備したことで、目標値よりも減少させることができました。
	企業債	796	693	▲103		
	他会計負担金等	462	462	0		
	その他	345	335	▲10		
31	資本的支出	1,924	1,845	▲79	B	建設改良費は、競争性を確保した適切な契約手続等により、目標値よりも削減することができました。
	建設改良費	1,120	1,043	▲77		
	企業債償還金	770	770	0		
	その他	34	32	▲2		
32	資本的収支	▲321	▲355	▲34	C	収支マイナスが目標値よりも増加したものの、29番の当年度純利益で賄うことができました。
33	流動資産	1,890	2,582	692	A	<p>単年度資金収支及び累積資金収支は、27番から32番に連動して、目標値を上回ることができました。</p> <p>なお、資金不足のマイナス表記は、剰余を意味しており、参考数値として掲載しています。</p>
	流動負債	1,716	1,869	153		
	うち企業債	776	776	0		
	単年度資金収支	1,170	1,709	539		
	累積資金収支	174	713	539		
	資金不足額	▲950	▲1,489	▲539		
	資金不足比率	—	—	—		

※収支状況の数値については、公営企業の経営に当たっての留意事項について（総務省通知）の収支計画記載要領に基づき、収益的収支は税抜き、資本的収支は税込みで作成している。